



お茶の水女子大

調理イラスト 苦手男性救う

女性の幸福実感などに関する県との共同研究に取り組むお茶の水女子大（東京都）が16日、男性の調理動作から料理を困難と感じる要因を分析する「調理実演調査」を、福井市の県生活学習館で実施した。今回の調査で、味付けを自分でする必要のないレシピや野菜の切り方がイラストで説明されている場合は、料理経験が少ない男性でもスムーズに調理できることが明らかになった。

（金崎千花）

男女共同参画を促すために、事の中で女性の分担率が高い家庭で料理をしない男性が積極的に、食家事に参加できるの調理動作の特徴を明らかにしようとする支援方法を探ることが、夫婦で食家事を担えるようになる。研究メンバーは、家

福井で実演 既婚者の行動分析

つくるため、2022年から実演調査を始めた。

3回目となった今回は、共働きをしている既婚男性を対象に調査。30代後半～40代後半の4人が参加し、市販の合わせ調味料を使った黒酢炒めとみそ汁の調理に挑戦した。開始の合図後すぐには手を動かさず、戸惑いながら自信なさそうに野菜を切ったりする様子が見られた。

調査員らは男性の調理行動をチェックしながら、つまづいた手順やレシピを確認したタイミングなどを記録。調理後には男性らに聞き取りをした。調査員の1人によると、男性からは「弱火や」「さっと炒める」など曖昧な表現は混乱する」などの回答が得られたという。

研究を総括する同大ジェンダード・イノベーション研究所の斎藤悦子教授は、「夫の積極的な食家事の参加は、夫婦間のコミュニケーションを増やし幸福感を高める」と話す。調査員の1人は、家族が料理を褒めるなども男性の食家事参加につながることを指摘した。

レシピを見ながら普段しない料理に挑戦する男性（奥）と、手が止まってしまつた男性がつまづいた手順を記録する調査員（手前）

福井市の県生活学習館で